

入来牧場における周年放牧生産子牛の離乳後の発育に及ぼす要因

花田 博之

目 的

入来牧場で周年放牧生産される子牛の発育は、吸乳期から育成期の間、舎飼牛に比較して劣る傾向が見られる。したがって周年放牧生産を行なっていくには、この時期の発育改善が重要であると考えられる。そこで今後の飼養管理技術向上の基礎資料を得るため、離乳後の育成期の発育値を測定し、発育曲線との違いを明らかにしようとした。

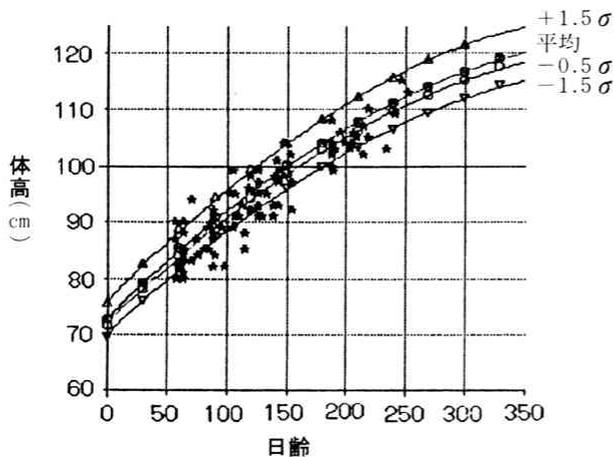
材料と方法

1992年9月から1993年3月に生まれた子牛48頭（去勢24頭、雌24頭）を、1993年4月から10月の期間にかけて、離乳時と生後59日齢から313日齢までの間の体高、胸囲、胸深、かん幅、尻長、及び体重を2ヵ月に1回測定し、登録協会の発育曲線と比較した。

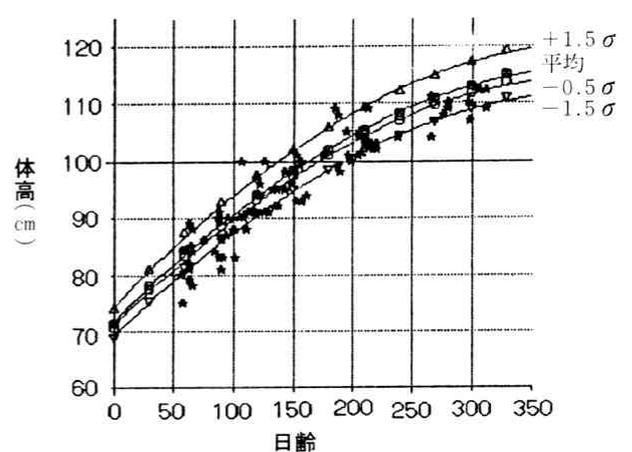
結 果

去勢子牛の体高は60日齢から150日齢の間で標準発育以下が多く見られたが、その後は標準発育範囲に近い発育をした（第1図）。雌子牛の体高は60日齢から100日齢の間で下限値以下が多く見られ、以後は標準発育範囲が多くなった（第2図）。雌子牛の胸囲及び胸深は200日齢前後まで下限値以下がみられたが、その後は平均値に近い発育を示した（第3図、第4図）。雌子牛の尻長は日齢が進んだ200日齢前後でも標準発育以下が多く見られた（第5図）。雌子牛のかん幅は標準発育の平均で発育した（第6図）。雌子牛の体重は生後60日齢から200日齢前後で標準発育以下の個体が多く見られたが、その後は標準発育の範囲に近い発育をした（第7図）。

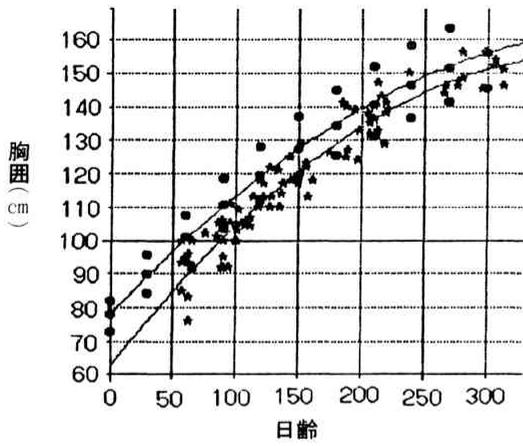
以上の結果から周年放牧生産子牛の離乳後の発育は生後2ヵ月から4ヵ月齢の間で劣るので、この期間における飼養管理技術の向上が今後の課題であると考えられた。



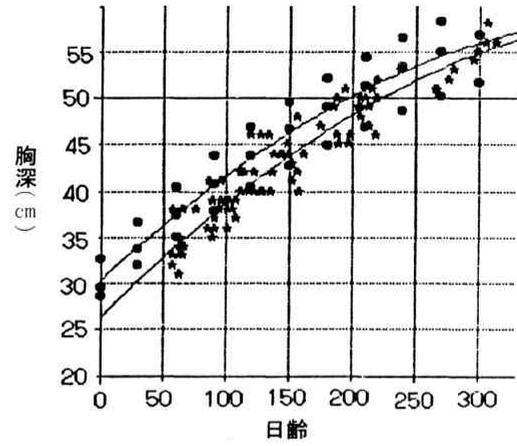
第1図 周年放牧生産去勢子牛の体高の推移。
★：周年放牧牛



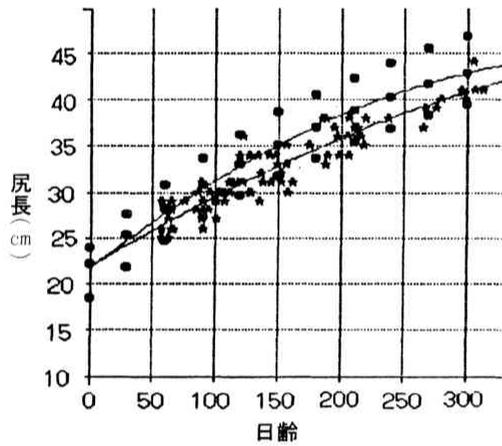
第2図 周年放牧生産雌子牛の体高の推移。
★：周年放牧牛



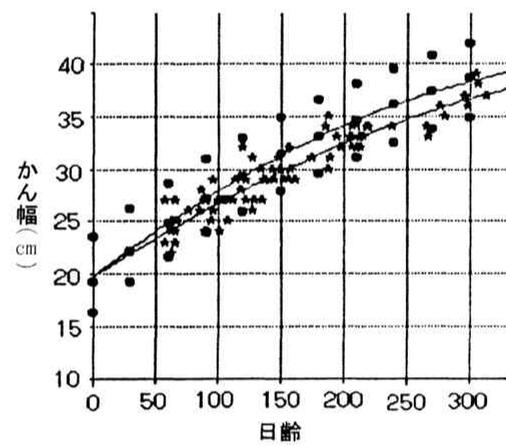
第3図 周年放牧生産雌子牛の胸囲の推移。
 ★：周年放牧牛 ●：標準発育・上・平均・下限



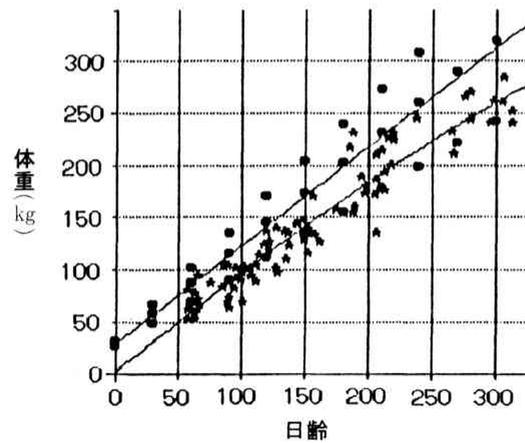
第4図 周年放牧生産雌子牛の胸深の推移。
 ★：周年放牧牛 ●：標準発育・上・平均・下限



第5図 周年放牧生産雌子牛の尻長の推移。
 ★：周年放牧牛 ●：標準発育・上・平均・下限



第6図 周年放牧生産雌子牛のかん幅の推移。
 ★：周年放牧牛 ●：標準発育・上・平均・下限



第7図 周年放牧生産雌子牛の体重の推移。
 ★：周年放牧牛 ●：標準発育・上・平均・下限